

郷土の治水

養老町における水との闘い



養老町教育委員会

発刊にあたって

わたしたちの町養老町は、西に急峻な山地、東に低湿地という両極端な地形であるため、人々は昔から共同して、自分たちの生命・財産を水禍から守ろうと、たゆまぬ努力を続けてきました。

特に江戸時代には、薩摩藩・長州藩等他郷の多くの人々による大治水事業が完工されたことは、ご承知のとおりです。時は移り、昭和三十四年には集中豪雨、伊勢湾台風の直撃を受け、二度までも多芸輪中は泥海化し、悲惨な姿となりましたが、住民各位の烈々たる郷土復興への情熱と、郷土愛に燃える献身的なお骨折りにより、今日のような隆盛発展する養老町に成長してまいりました。

しかし、その災害から年を経ることはや三十余年。今では当時の水害の苦しみも記憶のあなたに薄れようとしています。しかし、もう水災はないのだということは決していえません。そこでわたしたちは、幾多の困難を乗り越え、営々として築いてこられた先人の偉大なる功績に、今一度深く感謝し、これらの偉業を末長く後世に伝え、そして教訓としていかねばならないと思います。

最後に、この読本を住民各位が養老町の治水史を知る大切な資料として、ご活用いただければ幸いに思います。

なお、この読本を発刊するにあたり、執筆していただきました編集委員各位並びに、監修をお願いしました安藤萬寿男先生をはじめ、資料等提供していただきました関係各位に対して心からお礼申し上げます。

目次

第一章	濃尾平野はどうして出来たのでしょうか	1
第二章	郷土のあけぼの	5
第三章	治水工事のはじまり	6
第四章	輪中の形成と新田の開発	7
一、	輪中の形成と近世に開発された新田	7
二、	津屋川流路の新しい造成	25
三、	多芸輪中の成立と範囲	25
第五章	災害と治水	28
一、	洪水が多かった美濃	28
二、	江戸時代の主な洪水	28
三、	江戸時代の主要な治水工事	29
四、	明治の美濃の大洪水	46

五、昭和三四年の集中豪雨と伊勢湾台風	48
第六章 近世までの用排水	59
一、用水	59
二、排水	72
第七章 明治以降の治水と用排水	89
一、治水	89
二、用水	118
三、排水	124
四、土地改良	136
第八章 薩摩義士の顕彰事業	143
(付録) 養老町の主な水害と治水工事	149
用語解説	161
参考文献	166